

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】		
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと成績不振者対策の徹底	2 自主的な学習計画の作成と適切な自学自習時間の確保		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期には校内を，2学期には校内・校外を対象にし，授業公開を行っている。校務の多忙化や授業持ち時間の関係から空き時間を活用して授業見学に行く回数に限られてしまい，特に他教科の授業実践に触れるところまでできていない。</li> <li>・各学年における成績上位層と下位層との学力差が大きくなっており，かつ下位層の人数あるいは学習意欲に問題のある生徒数が増加傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に1，2学年においては，毎日規則正しく自学自習するという習慣が確立されていない。</li> <li>・平日の学習時間が十分に確保されていないうえに，休日においても時間をかけた学習がなされていない。</li> <li>・予習をして授業に臨み，不明なところを復習するという学習習慣が十分に確立されていない。</li> <li>・指示待ち受身的で自分で学習できず，塾に頼る生徒がみられる。</li> </ul>		
④達成目標 A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解に基づいた授業技術の向上を図るために，教科内のみならず教科を越えてお互いの授業見学を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より充実した「入口指導」を行うことにより，卒業までの生活を見通して互いに切磋琢磨し学び合う学習集団の形成を図る。</li> </ul>	A
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法について，職員全員を対象とした現職教育の機会を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1，2学年で毎日必ず自学自習する生徒の割合が90%以上。</li> </ul>	C
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不振者に対し，学年と連携を取りながら継続的に指導を重ね，学年末の成績不振者ゼロを目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学自習時間平日「学年+2」時間，休日「学年+5」時間の週計値（3年41時間，2年34時間，1年27時間）の達成率が80%以上。</li> </ul>	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に校内での授業見学・研究会，2学期に地域に公開した授業見学・研究会を実施する。3学期には以上の公開授業・研究会の内容を報告書にまとめる。</li> <li>・SSH事業の一環として，生徒の学習意欲を高める新しい教材や授業方法について研究を重ね実践的に取り組む。</li> <li>・大学ないし教育研究機関から講師を招いて校内で現職教育会を設ける。</li> <li>・定期試験終了後に教科会議において成績不振者を明瞭にし，学年と生徒情報を共有しながら教科担任による面談を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生のフレッシュマンキャンプ，2，3年生の学年集会等年度当初に行う「入り口指導」を充実させる。</li> <li>・国語・数学・英語において，予習－授業－復習－質問の学習サイクルが確立するよう面談等で繰り返し指導し，周期的に検証も行う。</li> <li>・毎日の自学自習開始時間とその場所が確定するように指導する。</li> <li>・部活動の顧問も，上記学習サイクルの確立について指導できるように，学年・担任と生徒の学習成績についての情報を共有する。</li> <li>・学習に対する内発的動機付けを高めるため，SSH事業の機会を大いに活用し，キャリア教育の機会を拡充する。</li> <li>・土曜講習について，学年担任団が教科担任と連携し，成績中上位の生徒が競って難問に取り組むような環境作りを行う。</li> </ul>		
⑥評価 *栃高評価満足度%は1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し，( )は5(わからない)の割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業公開・研究会を2回，保護者・教育関係者を対象とした授業公開を1回，実施できた。授業公開を行うことにより，教科内のみならず教科を越えて，授業力の向上についての話し合いが多く持たれるようになったが，新しい授業形態の実践と共有および評価方法においてまだ研究の余地を残している。</li> <li>・宇都宮大学より講師を招いて現職教育授業研究会を行った。</li> <li>・成績不振生徒を各教科で早期に指導する体制が，週1回定期的に教科主任が集まる教科連絡会を設けることにより整備された。学年会においては不振生徒に関する情報の共有が進んだが，成績不振者の減少にはまだ課題を残す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生はフレッシュマンキャンプを軸に系統的な入口指導をすることができた。2，3年生は学年集会を効果的に行えた。特にフレッシュマンキャンプでは，学習基盤となる人間関係づくりのプログラムが効果的であった。</li> <li>・毎日必ず自学自習する生徒は，1年生43%，2年生49%であった。この数字は4月期の1年生58%，2年生54%からも下がった。</li> <li>・自学自習時間達成生徒率は1年生16%，2年生5%，3年生26%であった。平日1時間以下生徒率が全校生徒の11%を占めており，問題である。</li> </ul>		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校としての「成績不振者」という観点が必要。</li> <li>・本校の授業について行ける下地を作る対策が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が高すぎる。低い評価が意欲の低下につながりはしないか。</li> <li>・学習時間と学力の相関を，個々の生徒について調べてみてはどうか。</li> </ul>		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績中上位層への組織的取り組みの強化。</li> <li>・学力格差の広がりに対応した授業方法，教材の見直し。</li> <li>・現代の教育課題を意識した授業力の向上。研究会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレッシュマンキャンプのプログラムの更なる充実化。</li> <li>・学年集会の多用と，クラス担任による生活設計学習支援の強化。</li> <li>・部活動，学校行事までを視野に入れた学習集団づくりの意識化。</li> </ul>		

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実践		【進路】【各教科】【各学年】	
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画を進路指導部で作成し、各学年担当を中心に、進路講演会、キャリア教育講演会、大学学部学科説明会を実施している。出張講義では、全職員での実施を計画している。卒業生との懇談会を企画し、学習意欲の向上を目指している。</li> <li>各種移動教室を通して学習指導部との連携を強化し、進路意識の醸成に努めている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>校内模試データによる校内ランクの見直しや、進路指導委員会に向けての検討をさらに充実させる必要がある。また、外部模試のデータ分析やその活用については各学年・教科にゆだねており、すべての教科で、組織的かつ計画的には実施されていない。</li> <li>進路学習室や大掲示板の活用等の利用環境や「興味・関心別おすすめ図書」は充実している。進路委員の有効な活用はなされていない。</li> </ul>	
④達成目標 達成率 A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次の適切な進路選択に向けて、1・2年次からの系統的な進路学習を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内ランキングの見直しや適切な情報提供を行い、進路指導委員会を充実させる。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>LHRや総合学習、講演会等の進路関係行事や土曜講座およびSSH関連行事の計画を行い、実践する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年・教科で模試結果の分析を行い、そのデータを踏まえて、個々の生徒や学年全体の指導の改善を強化する。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の指導資料をデータ化し、体系を完成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路情報を充実させ、その利用環境の改善を図る。</li> </ul>	B
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次からの進路学習を充実させるため、その出発点として、働くことや探求することの意義を実感させるべく「キャリア学習会」や「出張講義」を実施する。</li> <li>三年間を見通したLHRの計画・実践および土曜講座を充実させる。その実践の中で、単に高校生活だけではなく、将来を見通した進路学習計画を模索する。</li> <li>各学年のLHRの資料や土曜講座の計画、学年独自の進路関係行事の実施記録および長期休業前指導などの使用資料を電子データで整理し、進路学習の体系を確立する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>校内判定とランキングの見直しを丁寧に行う。また、大学・入試情報収集を一層充実させるための検討会を実施し、進路指導委員会の充実、生徒の進路希望の実現、教職員の研修に生かしていく。</li> <li>校内模試、実力テストや外部模試の分析や対策を学年・教科で行い、その結果を即座に教職員・生徒に還元できる体制を整えると共に、学年・教科の活性化に努める。</li> <li>進路情報の収集については、教職員が充分把握した上で、生徒にその契機を与え、生徒が主体的に取り組めるような体制作りをする。</li> <li>進路学習室・大掲示板や進路関係書籍の購入により、恒常的な情報発信に向けての体制を整える。進路情報を伝えるパイプ役として、進路委員を有効に活用する。「進路便り」の発行も検討する。</li> <li>1, 2年生において、上位者生徒の個別進路検討会を実施し、学年全体で学習状況や各教科の学力を共有し、進路指導に生かしていく。</li> </ul>	
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 %は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、( )は5わからないの割合を表す &lt; &gt;…昨年度データ</small>	栃高評価②：生徒 65 % (8) <58(7)> 保護者 78 % (11) <70(19)> 栃高評価④：生徒 80 % (6) <79(5)> 保護者 94 % (0) <92(3)> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で3年間を見通した進路学習は実施されているが、進路シラバスを充実させることにより、さらに発展させられる。</li> <li>各学年で土曜講座の工夫があるがさらなる充実の余地がある。</li> <li>講演会やOBとの懇談会など、意義ある内容の提供が増えた。</li> </ul>		栃高評価⑥：生徒 82 % (4) <81(3)> 保護者 92 % (3) <88(5)> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内模試、実力テストの分析や採点講評を生徒に提供するなどの組織的な活動ができてきている。ただ、その活用は不十分である。</li> <li>1, 2年生での進路検討会の実施により、情報の共有化と適切な進路指導の充実が図られ、進路行事としての位置付けが確立しつつある。</li> <li>進路指導委員会を中心とした指導体制が構築されている。</li> </ul>	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおむねよくやっているのではないかと。</li> <li>担当者が変わっても同じ効果が出るシステムを構築することが大切。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>校内模試データはあくまでも校内における相対評価。これを進路指導に生かすためには母集団自体の特徴の把握が大切。</li> <li>大学の善し悪しをランキングだけで判断しない指導が今後も必要。</li> </ul>	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路学習に関する情報提供の管理と学年への提示。</li> <li>1年次の文理選択への情報提供のさらなる充実。</li> <li>生徒、教員の動きを踏まえた新たな進路シラバスの作成。</li> <li>SSHや出張講義、講演会を進路・学習指導につなげる工夫。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>模試分析をした結果をいかに生徒に活用していくかの工夫。</li> <li>各教科、各学年で分析した結果を全職員に提供する場の設定。</li> <li>模試データの共有と栃高独自進路システムのノウハウの伝承。</li> <li>各クラス進路委員の活用と進路学習室の改善。</li> </ul>	

①重点目標	d 読書量向上への指導の実践 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】【生徒指導】												
②重点課題	5 活発な図書館活動の実施	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成												
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書貸し出し数の増加などにより徐々に読書活動が活発化している面が見られる一方、諸行事に対する生徒自らの積極的な関わり方については途上段階にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側が生徒に対して十分行っていると考えている「健康に関する指導」は、生徒には必ずしも十分であるとは受け止められていない。</li> <li>・不登校傾向のある生徒に対しては担任、教育相談係が中心となり、関係職員と連携をとりながら組織的に対応している。</li> </ul>												
④達成目標 達成率 A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="360 347 1079 432">・貸し出し数目標 5,000冊</td> <td data-bbox="1079 347 1146 432">B</td> </tr> <tr> <td data-bbox="360 432 1079 517">・談話会年間5回以上</td> <td data-bbox="1079 432 1146 517">A</td> </tr> <tr> <td data-bbox="360 517 1079 603">・読書会年間5回以上</td> <td data-bbox="1079 517 1146 603">A</td> </tr> </table>	・貸し出し数目標 5,000冊	B	・談話会年間5回以上	A	・読書会年間5回以上	A	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1160 347 2011 432">・毎日運動を継続する生徒80%</td> <td data-bbox="2011 347 2072 432">B</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1160 432 2011 517">・毎月発行する「保健だより」の充実と保健委員の活用</td> <td data-bbox="2011 432 2072 517">A</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1160 517 2011 603">・各クラス出席率99.5%</td> <td data-bbox="2011 517 2072 603">C</td> </tr> </table>	・毎日運動を継続する生徒80%	B	・毎月発行する「保健だより」の充実と保健委員の活用	A	・各クラス出席率99.5%	C
・貸し出し数目標 5,000冊	B													
・談話会年間5回以上	A													
・読書会年間5回以上	A													
・毎日運動を継続する生徒80%	B													
・毎月発行する「保健だより」の充実と保健委員の活用	A													
・各クラス出席率99.5%	C													
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間交流を充実させる。</li> <li>・「図書館コーナー」(多目的ホール)を充実させる。</li> <li>・掲示板や放送等を使った広報活動を継続的に行う。</li> <li>・ホームページを継続的に更新する。</li> <li>・「談話会」を継続し「読書会」の拡大をはかる。</li> <li>・新聞記事配布を継続的に行う。</li> <li>・1年生オリエンテーション時に課題図書を配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康的な生活習慣に関する指導計画を作成し、当該教科や保健室利用生徒に適宜指導し実践を促す。</li> <li>・保健だよりを活用し、健康に関する情報を発信する。</li> <li>・日常的な欠席予防指導を強化する。</li> <li>・不登校生徒の状態の見極め、指導・援助計画、実践という主な流れを教育相談係を中心に学年、担任、養護教諭と連携し取り組む。</li> </ul>												
⑥評価 *栃高評価満足度%は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、( )は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「貸し出し数」3513冊(3/1現在)。</li> <li>・談話会/読書会については年度末にそれぞれ5回達成できる見通し。</li> <li>・達成目標全体の達成率は概ね良好で、特に3年生は1年次からよく借りていた。</li> </ul>	<p>運動実施状況 週3日以上 1年68% 2年59% 3年53%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年の実施率が昨年を4.7%下回った。</li> <li>栃高評価⑧ 生徒51%(6)&lt;38(4)&gt; 保護者76%(7)&lt;65(16)&gt;</li> <li>・設問の改善により健康指導全般についての適正な評価が出た。</li> <li>・保健委員を活用した「保健だより」の内容の充実や生徒への配布、HPへの掲載等により、生徒・保護者の意識が高まった。</li> <li>・クラス出席率99.5%を達成できなかったクラス多数</li> <li>出席率全校計98.7%(4~2月)</li> <li>月間出席率99.5%以上のクラス数(のべ43≒24%)</li> <li>・長欠や不登校生徒数が増加した。</li> <li>・軽微な理由による安易な欠席が目立つ。</li> </ul>												
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸し出し数等の情報を更に発信すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席生徒の対応についてバリエーションを持たせる必要がある。</li> </ul>												
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・談話会の参加人数に関して、回によってバラツキがあるが1回平均20名以上を確保する。</li> <li>・読書会開催を図書委員だけでなく、他の生徒に対しても参加を促していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の継続と健康的な生活習慣の実践について更に指導する。</li> <li>・保健委員の活用や「保健だより」の充実、HPの活用等を継続する。</li> <li>・生徒・保護者への、安易な欠席に対する注意喚起を継続する。</li> <li>・日常的な欠席防止指導を強化する</li> <li>・不登校傾向生徒・保護者との関係を構築しつつ生徒への適切な援助の実践をはかる。</li> </ul>												

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導 <span style="float: right;">【特活】</span>			
②重点課題	7 全生徒で取り組む充実した学校祭の企画と実施	8 学校行事、部活動、体験活動等に全力的に取り組む支援体制		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒実行委員会が主導して文化委員等生徒会組織を動かし、全員参加による学校祭を企図しているが、生徒の自主・自律性が十分に発揮されているとは言い難い。</li> <li>・文化的企画と娯楽的企画とのバランスが不十分である。</li> <li>・地域社会への事前のアピールが不十分である。</li> <li>・クラス・学年・学校全体の一体感を育てている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人との交歓会（1，2年福祉国際委員及び全校希望者）</li> <li>・県庁堀清掃ボランティア（1年全員）</li> <li>・生徒会リーダー研修会（生徒会新役員・各部活動部長）</li> <li>・スキースノーボード教室（1，2年希望者）</li> <li>・ポストン海外研修（2年希望者）</li> <li>・学業と部活動の両立支援</li> </ul>			
④達成目標 達成率 A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった	・入場者目標延べ2,500人(雨天時1,800人)	A	・部活動加入率80%の維持	C
	・充実した文化委員会の定例実施	A	・外国人との交歓会参加目標人数(各会30名以上)	A
	・本校HP内から栃高祭へのアクセス件数3,000件	A		
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。</li> <li>・クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にし文化委員の指導性の強化を図る。</li> <li>・生徒実行委員会だけでなく、福祉国際理解委員会、図書委員会、進路委員会等の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。</li> <li>・本校HPを活用し、学校祭プログラムを事前告知し、情報発信に努める。</li> <li>・学校全体の一体感を育てるために、後夜祭企画は内容をスリム化し、全学年参加型企画を目指す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動教室においては、その魅力を十分に事前告知することにより、目標人数を達成する。</li> <li>・体験活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして当日に臨めるようにする。</li> <li>・福祉国際理解委員会による交歓会等の行事をとおして、福祉国際理解委員会活動の活性化を図る。</li> <li>・年度初めの部活動加入率の調査と、年度末の時点での退部状況の調査を実施する。</li> </ul>			
⑥評価  *栃高評価満足度%は1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し、( )は5(わからない)の割合を表す < >…昨年度データ	<p>栃高評価⑩ 生徒89%(3)&lt;84%(2)&gt; 保護者100%(0)&lt;96%(1)&gt; 入場者2,494名(過去最多を更新)昨年度2,186名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備段階で全体的な遅れを感じたが、生徒実行委員会とクラス文化委員の連携がうまく図られ、クラス企画はより一層充実したものとなった。</li> </ul> <p>本校HP内から栃高祭へのアクセス件数3,112件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPを活用した学校祭の情報発信が目標数の到達した。</li> </ul>			
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方向性をつけてあげるだけで自ら実践することができる生徒の集まりであることの証明。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加した生徒のやる気や勢いが学習活動に生かされているかの検証が必要。</li> </ul>			
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主導により計画的に準備(クラス企画)を進める体制づくりの確立。</li> <li>・全員で取り組むクラス企画の内容の充実と文化性の向上。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率の減少幅を小さくするような働きかけをしていく。</li> <li>・放課後や土曜日の活動時間の確保と支援。</li> <li>・委員会活動のより一層の充実を図る。</li> </ul>			

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活におけるルールの遵守とマナーの向上	10 校内生活における規範意識の向上		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活は規律や社会的ルールを学ぶ場であるという認識に立ち生徒自らが学校の決まりを守ろうとする態度を育成している。</li> <li>・教職員，生徒会交通委員会を中心に交通事故発生ゼロ，交通違反ゼロ，及び通学路における交通マナー向上を目標に指導にあたっている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の醸成や校内規律に係わる指導では，担任のみならず教職員の共通理解，共通実践にもとづく体制を整え，指導にあたっている。</li> <li>・「社会で許されない行為は，学校でも許されない」という毅然とした方針で指導にあたっている。</li> </ul>	
④達成目標 達成率 A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逸脱行為，問題行動発生ゼロ。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話規定違反生徒ゼロを目指す。</li> </ul>	C
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故発生ゼロ，自転車交通違反ゼロ。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装注意書発行ゼロを目指す。</li> </ul>	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒観察を注意深く行い問題行動，逸脱行為の未然防止に努める。</li> <li>・教職員が立哨指導等を含む交通指導を行い安全指導事故防止に努める。</li> <li>・交通事故の新聞記事等を利用し，事故に遭わない，起こさない等の指導を徹底する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内における携帯電話使用規定の周知徹底を図る</li> <li>・校内での携帯電話使用禁止について啓発活動を行うと共に教室巡廻指導等を徹底する。</li> <li>・服装頭髪規定違反生徒に注意書の発行を行い，複数の教員の指導を受けるよう徹底する。</li> </ul>	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し， ( )は5わからないの割合を表す < >・・・昨年度データ	栃高評価⑫ 生徒 73% (3) <68% (1)> 保護者 84% (2) <70% (18)> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1，2年生で問題行動が起こった。</li> <li>・交通安全指導に対する意識が昨年より高まった。</li> <li>・交通事故4件発生。苦情2件。交通違反ゼロ。</li> <li>・並進，傘差し，ヘッドフォン等の指導件数ゼロ。</li> </ul>		栃高評価⑬ 生徒 71% (4) <70% (3)> 保護者 82% (7) <85% (5)> 栃高評価⑭ 生徒 72% (5) <53% (4)> 保護者 80% (8) <73% (13)> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服装注意書発行ゼロ達成。しかし第一ボタン解放等の着崩しが目立った。また眉加工生徒数人指導した。</li> <li>・携帯電話規定違反ゼロをめざし活動強化したが27件指導した。</li> <li>・栃高評価では生徒の携帯電話利用マナー，モラルについて昨年より自覚が深まった。</li> </ul>	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロを目標に掲げている以上評価が低いのは当然。事故や問題発生はあくまでもゼロを目指してもらいたい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話や服装だけでなく他の生活上の側面における規範意識を持たせたい。</li> </ul>	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逸脱行為，問題傾向の生徒については面談，情報交換実施し予防的指導を徹底する。</li> <li>・特に事故に遭わない指導を中心に交通ルール遵守，マナー向上等を徹底させ，目標ゼロを達成する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話利用ルール遵守，モラル向上指導を更に徹底する。</li> <li>・服装指導を更に強化徹底する。</li> <li>・新たに容姿・容儀指導を強化する。</li> </ul>	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み <b>【保健厚生】</b>	i <b>広報活動の充実</b> <b>【渉外】【教務】</b>
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活（学習）環境向上への取り組み。	1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室や廊下に落ちている紙くずの放置，教室前廊下のロッカー上が私物で散乱している教室等が見られる。</li> <li>・ゴミと資源の分別回収は概ね良好であるが，可燃ゴミの量を減らすことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「校報」を年4回発行（6月，7月，10月，3月）</li> <li>・中学校訪問用持参資料の作成</li> <li>・ホームページの定期的な更新→ 月間アクセス数 約7,000</li> <li>・「PTA だより」を年2回発行。（9月，3月）</li> <li>・PTA 総会（5月），PTA 支部会（6月，7月），学年研修会（3年6月，1・2年9月）において進路指導・学習指導・生活指導等の取り組みや現状についての情報の提供。</li> <li>・PTA 評議会を年4回開催。</li> </ul>
④達成目標 達成率 A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可燃ゴミの量を月間 1,200 kg 以内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数 15 校</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの放置，ロッカー上の私物の散乱等の指摘ゼロを目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの月間アクセス数 10,000</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA 支部会等の意見くみ上げによる，「PTA だより」の内容のさらなる充実</li> </ul>
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化委員会による清掃状況の確認と，清掃用具点検を実施する。</li> <li>・環境美化委員会を中心とした資源ごみのリサイクル運動を推進する。</li> <li>・環境美化委員が学習環境を整える意識の啓発を促し，月に一度教室環境をチェックする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ上での一日体験学習への案内</li> <li>・中学校訪問による積極的リクルート活動(2学期)</li> <li>・ホームページ更新頻度の向上と内容の充実</li> <li>・「校報」の電子化</li> <li>・「PTA だより」の内容に関する保護者の意見・感想を支部会や学年研修会等の機会を利用して積極的にくみ上げる。</li> </ul>
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し，( )は5わからないの割合を表す &lt; &gt;…昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃高評価⑮生徒 60 % (5) &lt; 67 % (3) &gt; 保護者 65 % (14) &lt; 52 % (34) &gt; 学校での環境活動に対する取り組みが，保護者にも認識されるようになった。</li> <li>・可燃ゴミ合計量 11,470 kg (月平均 1,043 kg) (4～2月)</li> <li>・月例大掃除後の教室環境チェックを実施した。概ね良好である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問は栃木市と壬生町の中学校 15 校と交渉し，8 校に訪問することができた。参加した中学生や保護者からの反応は良好で，大規模な説明会では聞けないような具体的なことについて積極的な質問を受けた。</li> <li>・HP のアクセス数は 4 月～ 2 月の平均で 10,260 件/月，上半期(～8/31) 273 件/日→下半期(～3/12) 425 人/日と上昇傾向にある。更新の頻度に比例して質的向上も見られ，地域社会への発信が十分に行われた。</li> <li>・支部会・研修会等で「PTA だより」に関する内容変更の要望が特になかったため，丁寧な編集を心掛けた。</li> </ul>
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関しては数値的な目標や現象を数多く取り上げ，具体的に成果が見える形で指導をしていくことが肝要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から実施される特色選抜については丁寧な説明が必要となることが予想される。</li> </ul>
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別回収による，可燃ゴミの減量を定着させる。</li> <li>・エコキャップのリサイクル活動の継続と，節電に対する意識を高め，環境に配慮した校内活動を実践できるようにする。</li> <li>・教室や廊下，ロッカー上の整理整頓については，HR 担任と連携してこまめに指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問の数を増やして行くには，実施時期，対象学年等に工夫が必要である。</li> <li>・一部の部活動や行事でまだ更新頻度の低いカテゴリがあるので，更新頻度に関して量的底上げが望まれる。</li> <li>・「PTA だより」の一層の充実に資する意見をより広く集めたい。</li> </ul>